

米国神経病理認定医試験を受検して

Department of Pathology, The Methodist Hospital, Houston, Texas, USA

武井英博

昨年、米国の神経病理認定医試験を受検する機会があったため、日本神経病理学会の米国、カナダの広報委員として報告したい。

- 1) 受験資格: Accreditation Council for Graduate Medical Education (ACGME) 認定の2年間の神経病理のフェローシップ研修プログラムを終了した者に受験資格が与えられる。現在は全米で35の認定プログラムがあり、42人のフェローが研修している。この神経病理プログラムは上級研修トレーニングプログラムの1つのため、米国で解剖病理の基礎トレーニングを終え認定医試験に合格した者、或いは、神経内科のトレーニングを終えその認定医試験に合格した者のみが進むことができる。
- 2) 受検日、場所: 神経病理認定医試験はその受験者が少ないこともあって、2年に1度、奇数年のみ9月に、フロリダ州のタンパの試験センターで実施される。
- 3) 受検費用: \$1800 (受検地までの旅費、宿泊代は含まれず)
- 4) 試験について: 1日の試験(朝8時に開始、1時間半弱の昼休憩を挟んで、17時前に終了)。試験はコンピューターを使用した択一式の問題で、50問のガラススライドを実際に検鏡して解答する問題、150問の文章題、120問のPCのバーチャルマイクロスコープを用いて解答する問題からなっていた。仲間から聞いていた通り、問題はたいへん実践的な問題で通常の神経病理の業務(剖検脳、外科病理など)をこなしていた者なら必ず合格する問題が大部分で、教科書の重箱の隅をつつくような問題は全くなかった。神経病理は、神経変性疾患(アルツハイマーなど)、炎症、血管障害、小児病理(奇形、代謝異常など)、腫瘍、筋肉と末梢神経、分子神経病理などからなるが、興味深いことに腫瘍の問題は4-5問のみで、あとの分野は全て万遍なく出題されていた(小児病理が占める割合が多かったような気もした)。これは、腫瘍は一般病理医にも対処可能で、神経病理医はその他の分野の知識を重点的に得るべきだという考え方に基づいているようで、10年以上前から変わっていない方針の様だ。筋疾患、末梢神経疾患では、日常扱う電顕、酵素組織化学の写真も出題されていたが、Nerve teasingはなかった。顕微鏡は試験場に備え付けられていたが、日常使用している×2の対物レンズがなく(×4、10、20、40のみ)、全体像の把握が少し困難に感じた。
- 5) 記憶に残っている問題: 腫瘍では、Subependymoma、Ependymomaの組織像、Pilocytic astrocytomaのスミア像。末梢神経では、Leprosyの組織像で、行うべき特染を問う問題。末期肝臓疾患に伴う脳の変化の組織像、筋肉ではPerifascicular atrophyを示す所見で、この疾患に関係する自己抗体を問う問題。胎児脳組織で解答が妊娠28週の正常脳である問題。Medulloblastomaの遺伝子異

常と予後との関係。PML、トキソプラズマ、HIV 脳症の組織像。ピック病の組織像。クリプトコッカスの CSF 細胞像。胎児脳の肉眼像で妊娠週を問う問題。Corticospinal tract が大脳脚の中 1/3 を通過していることを上位の梗塞部位の組織像と関連づけて問う問題。

- 6) 合格率： 70 - 80% (初回受験者) の合格率で、普通に研修していた者は必ず合格すると考えられている。各分野とも決まった点数以上が取れていなければならないが、その基準点は公表されていない。試験結果は実際の点数は知らされず、合格、不合格のみが郵送で受験者に知らされる。
- 7) 米国の試験に対する考え方： 米国では試験の点数の取れない者は医学部に入学できない。日本とは異なり、基準の点数を取った者の中で (点数に応じて) 希望すればさらに多額のお金 (奨学金もあるが) を払ってトップクラスの私立大学医学部に進学可能である。州立大学医学部は一般に安価である。医者はこうした頭の競争を勝ち抜いた者のみになれる職業で、さらに卒後レジデント研修、上級フェロー研修への選別、研修を終了した者のみがそれなりの社会的地位、待遇が与えられる。研修は、その基準となるガイドラインは与えられるが、それを守っている限りはあとは自由に自分の好きなことができる。その分、ある一定の期間、或いは研修の終了後に試験があり、この試験の合格をもって本当の研修終了と見なされる。この試験は通常 70 - 80% 以上の合格率に設定しており、普通に研修をしていた者なら必ず合格する試験である。不合格者は 問題あり の称号が与えられ、アカデミック (教育研修) プログラムでは恥ずかしくていられないのが普通である。このように米国では試験がチェックポイントの役割を果たし、これにかなりの重きを置いている。
- 8) 最後に： 現在の職場の Texas Medical Center 内の 11 人の神経病理医に試験の不合格者は一人もいなく、私は試験不合格の際には職を辞するつもりでいたため、試験の約 2 ヶ月後に合格通知を受け取り何とか一安心であった。自由な国アメリカは何の差別もなく試験によって出来ない者を排除し、選ばれたものにはそれなりの社会的地位と待遇が与えられる、ある意味、わかりやすい、公平な国である。これを身をもって体験した機会であった。